



連載5

皆さんに正しく伝えたい禁煙の話題

「有徳の人づくり」に効果が上がる

小中高校での新たな防煙・禁煙教育

河田英治 政治家も受動喫煙から守る会・理事

「有徳の人づくり」  
9年目の現在を見る

静岡県では、平成23年（2011年）に「有徳の人づくり」アクションプランを策定し、有徳の人づくりを始めた。県知事の川勝平太氏は、もともと比較経済史専門の経済学者であった。氏が『富国・有徳論』を上梓したのは、1995年である。有徳の人づくりは、『富国・有徳論』を基にしたものだろう。

国民は有徳の人になることで国が栄え、発展するという考えを静岡県にあてはめると、県民に有徳を具え

た人が多くなれば、自ずと県は栄え、発展することになる。それを可能にする実践計画が、「有徳の人づくり」アクションプランである。

スタートしてから今年が9年目に入る。理論、理念として立派なものであることは疑う余地がない。川勝県知事は、このプランを実現するための標語に「一に勉強、二に勉強、三に勉強」と掲げた。まるで受験勉強の学生が掲げる標語のようだが、内容に違いがある。

学校で、生活の現場で、大自然に触れる場で、学ぶ姿勢を大切にし、気づいたこと、得たことを日常生活

を、47都道府県の比較ランクで見ること、現在の進捗状況はある程度把握することができる。

有徳の人づくり重点対策

「確かな学力」の育成

○教職員及び高校生の国際化の推進

○「新しい実学」の奨励

○生きがいや潤いをもたらす文化、



静岡県が目指す「有徳の人づくり」アクションプランを網羅した計画書(右写真)。2011年にスタートし、現在は第2期目となる。このプランのことは、他の都道府県において関心が高い。

に活かすということである。しかし物事には、言うは易し行なうは難しということが付いて廻る。

県民は、「有徳の人づくり」をどのように受け止めて来たのだろうか。「私は意識しています」と言うことは答えにならない。過ぎた8年間に県民が、また県がどのような変化を遂げて来たかで、「私は意識しています」と言うことの程度が分かる。

47都道府県の中で見る  
静岡県の位置

同プランには、重点対策項目がある。それに関連する県民と県の変化

スポーツの振興

○高等教育の充実

○家庭における教育力の向上

○地域人材の活用

○「命を守る教育」

静岡県と全国の都道府県  
比較に見るランク

- ・小学生算数の学力 21位
- ・小学生国語の学力 38位
- ・中学生英検3級 10位
- ・全国学力テスト正解率
- 小学生 17位
- 中学生 5位
- 小中高 朝の読書 10位
- 小中の不登校 10位
- 生徒間の暴力 10位
- 対教師の暴力 8位
- 高校サッカー勝率 20位
- 県の魅力度 22位
- インターネット利用率 15位
- 健康寿命 男性 6位
- 健康寿命 女性 13位
- 高齢者人口 10位
- 糖尿病患者数 5位
- 喘息患者数 14位
- 離婚件数 10位



・交通事故発生件数 12位  
・喫煙率 22位

小中学生の学力は、47都道府県で中位にあると見ることができ。中学生の学力と英検は、上位にランクしているが、不登校、暴力件数が上位にあることからすると、学校、家庭において改善の余地がある。

これらの点については、アクションプランの効果がまだ現れていないと見なければならぬ。

「県の魅力度」22位は、富士山を有する県として意外な感じがする。やはり10位以内にランクインしたいところだ。有徳の人々による工夫が求められる分野である。

県民の健康面はどうか。健康寿命が上位にあるものの糖尿病、喘息の多さは相反することである。また、離婚、交通事故の多さは、モラルに関することで、モラル向上が求められることになる。

アクションプランの浸透度を正確に把握するには、多方面で精査が必要である。その辺の調査データは、有徳の人が増えているかどうかを把握

握する上で、また計画のステップアップには必要なことであろう。

## 有徳の人を多くする 防煙・禁煙教育への着目

静岡県と全国の比較において、最後の項目に「喫煙率」22位がある。小中高生、それに大学生も含めた防煙・禁煙教育は、文部科学省、厚生労働省も望んでいることだ。静岡県においても、小中高校では、地域医師会の協力を得て、また有志の医師が学校訪問し、防煙・禁煙教育を行っている。それは、意識の高い一部の学校であって、すべての学校ではない。

その結果、20歳を過ぎると喫煙習慣に染まる大人が全国で22番目に多くなるのが事実であるかどうか、詳細な検討が必要である。それと共に防煙・禁煙教育を行なっている学校と、そうでない学校を把握することは、県として必要なことだろう。

他県の場合と共通しているのは、校内敷地の禁煙化には熱心であったが、防煙・禁煙教育の継続的な取り

組みになると、熱が下がるようだ。その理由としては、

一、効果的な防煙・禁煙教育を行なうには、専門家である医師の全面的な協力を得なければならぬ。  
一、大勢の生徒が一堂に集まって行なう防煙・禁煙教育は、内容の充実もさることながら、生徒たちの興味心を持続させる話術を必要とする。

浜松市内の小学校に出向き、防煙・禁煙教育を行なう医師に、筆者は同行したことがある。1時間くらいの防煙・禁煙教育であったが、映像など事前の準備、話の構成などかなり時間とエネルギーを要することを知って、医師の取り組みに頭が下がる思いがした。

教員に防煙・禁煙教育ができないことではないだろう。だが、防煙・禁煙について生徒たちに浸透する話をするには、教室で考えさせたり、問題を解かせたりすることとはまた違う説得性がある。

なにより人間の身体に及ぼす喫煙の作用を、自信をもって正しく伝える

るには、医学的な知識も習得していなければならぬ。それは、片手間でできることではなく、日々の授業の準備などで手いっぱい教員には難しいことだろう。

可能性があるとすれば、学校保健師である。しかし、保健師特有の几帳面さ、まじめさが得てして子供たちの気持を引き付けることができず、防煙・禁煙教育を無効なものにすることがある。その点の工夫と経験は、「有徳の人づくり」アクションプランの実践項目に「防煙・禁煙教育」を追加し、経験によってカバーして行きたいことである。

## 他県に先駆けて行ないたい 健康とモラル向上の教育

アクションプランの計画は、一定年数を経て見直されることになっているようだ。追加項目として、学校や家庭での「防煙・禁煙教育」の追加が「有徳の人づくり」に有効であることを説明したい。

その前に「有徳な人」とは、どのような人であるか、おさらいの意味



## これからの防煙・禁煙教育

浜松市内の小学校で行なう加藤医院院長・加藤一晴先生の「防煙・禁煙教育」（上写真）。人間の肉体と精神に害をおよぼすというマイナス思考的な教育スタイルが、喫煙習慣をなくすことで、肉体と精神がともに向上するというプラス思考的な防煙・禁煙教育が主流になると、自ずと県下に「有徳の人」が多くなるだろう。

## 有徳の人づくりと 防煙・禁煙教育の連動

### 有徳の人になる 3つの要点

1. 自らの資質・能力を伸長し、  
個人として自立する人になること
2. 多様な生き方や価値観を認め、  
人との関わり合いを大切に  
する人になること
3. 社会の一員として、よりよい  
社会づくりに参画し、行動する  
人になること

### 防煙・禁煙教育 3つの要点

1. 自分の身体を健康に保つこと  
で、自らの資質・能力を伸長する  
人になることができる
2. 人間の尊さと人間関係を損な  
う受動喫煙を教えることで、人との  
関わり合いを大切にする人にな  
ることができる
3. 1と2ができる人になることで、  
自ずと社会の一員として、よりよ  
い社会づくりに参画し、行動する  
に人なることができる



「生涯無煙」をすすめる加藤先生の防煙・禁煙教育に耳を傾ける子供たちと先生方

ることは共通している。もし健康でなければ、修練もできず根気も続かない。そうすると、自立した人になることは、かなり難しくなる。

「防煙・禁煙教育」は、自らの資質・能力を伸長させる導入方法として最適である。タバコ煙は自分の身体、他人の身体を不健康にすることを教える、子ども達には生涯を通じて健康アップとモラル向上の必要性がインプットされることになる。

次に「多様な生き方や価値観を認め、人との関わり合いを大切にすることになる」には、自分の尊さに気付くことが早道であろう。能力があるから尊いわけではない。また、偉いわけでもない。

人間は、生きていくことだけで尊い。なぜ生きているのか分かれば、もっとよい。分からなくても、この世に生まれて来たことで、様々な体験をすることになる。その体験が尊いと気づいた人は、他人の多様な生き方、価値観を認めることができるようになる。

認めることができない背景には、

見栄、虚栄が入り混じった恐れ、不安があるからである。「防煙・禁煙教育」は、タバコ煙が自分の尊さを損ね、他人を害してしまうことに踏み込んで教えると、ひとり一人の尊さに触れる機会となるだろう。

20年前頃は、喫煙が大人の付き合いだと言われていた。今では、自制的のない人として、立場ある地位に付けることを敬遠するようになった。人間関係の在り方が変わって来ているのだ。

三つ目の「社会の一員として、よりよい社会づくりに参画し、行動する人になる」には、一つ目と二つ目の事を身に付けた人でなければ、難しいことだろう。健康を害する生活

で3項目を確認したい。

- 一、自らの資質・能力を伸長し、個人として自立した人
  - 一、多様な生き方や価値観を認め、人との関わり合いを大切にする人
  - 一、社会の一員として、よりよい社会づくりに参画し、行動する人
- となっている。

「自らの資質・能力を伸長する」には、漠然とそう思うだけでは伸長させることはできない。まずは、自分の資質と能力を把握することであるが、他人のことはよく分かるが、自分のことは分からないのが一般的で、把握といっても易しいことではない。

例えば、自分の健康状態の把握、健康維持の仕方も不明であろう。大方の人は、健康を害し家族や周囲の人に迷惑をかけることになる。精神面では、自分の癖、発言が周囲の人に不愉快な思いをさせても気づかないことがある。そのままでは、「有徳の人」にはなれないだろう。

能力には、様々な分野で言われていることであるが、伸長させるには体験と修練、根気と工夫を必要とする

習慣を続けている人は、より良い社会づくりに参画することは難しい。そのことは、自分の資質・能力を磨けない人にもあてはまる。

喫煙習慣がある人の社会参画といえば、タバコ税収面での協力がある。ところが健康を害し、治療を受けることで税収額以上に国や県の医療費に負担を掛ける。こうしたことを中高での「防煙・禁煙教育」で教えることで、近い将来「有徳の人」になる可能性が高くなる。

これまでの「防煙・禁煙教育」は、どちらかと言えば、人体への害を医学的な根拠に基づいて教えて来た。受動喫煙が他人の命を奪うことが、科学的に立証されてからは、人間の資質・能力の向上を妨げ、人との関わり合いを損なうことも教える「防煙・禁煙教育」にシフトしている。

それは、「有徳な人づくり」に近道となる。静岡県は他県に先駆け、身体（健康）とモラル（精神）の両面から、県内すべての小中高校で、「防煙・禁煙教育」を組み入れるようになることを期待したい。